

●第39回 緑区社会福祉大会について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第39回緑区社会福祉大会は令和3年3月22日に緑区役所にて、授賞式のみ行いました。感染予防対策を取りながら、緑区において永年にわたり、社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の方31名の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に表彰が行われました。

一方、令和元年度、令和2年度と新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年大会の第二部として行っていたシンポジウムの実施ができませんでした。

次のスライドは、本来予定していた「子ども・子育てに関する取組」についての内容となっています。地域で行われている、子ども・子育て世帯向けの取組を紹介します。

ぜひ、ご覧ください！



※この内容は、令和2年2月28日 第38回緑区社会福祉大会 第2部のシンポジウムで行う予定であった資料を更新したものです。地域でできる子ども・子育て支援について考えていただくきっかけになればと考えています。

高めよう！地域の子育て力
～わたしたちのまちで、子どもたちを～

第3期緑区地域福祉保健計画 みどりのわ・ささえ愛プラン
重点テーマ④「子ども・子育てに関する取組」の地域活動紹介



1

第3期プランの特長

「区域計画」6つの重点テーマと目標を設定

- ① 日常的な見守り体制づくりに関する取組
- ② 認知症に関する取組
- ③ 障害児・者に関する取組
- ④ 子ども・子育てに関する取組
- ⑤ 災害時に支援が必要な方への取組
- ⑥ 健康づくりに関する取組



★いずれも区全域に共通する昨今の大きな社会的課題です

2

区域計画 重点テーマ4 「子ども・子育てに関する取組」

- ① 子ども・子育て世帯を取り巻く状況
- ② 緑区内の子ども・子育ての取組

についてお伝えします！



3

区域計画 重点テーマ4 「子ども・子育てに関する取組」

【取組と方向性】

子育て世代を取り巻く環境として、少子高齢化や核家族化、共働き世帯の増加、情報化社会の進展によるコミュニケーション方法の多様化などにより、ライフスタイルが変化してきています。

こうした中で、

地域でのつながりの希薄化による子育て世代の孤立化が問題となっており、子育て力の向上と地域の子育てを支える力が必要とされています。

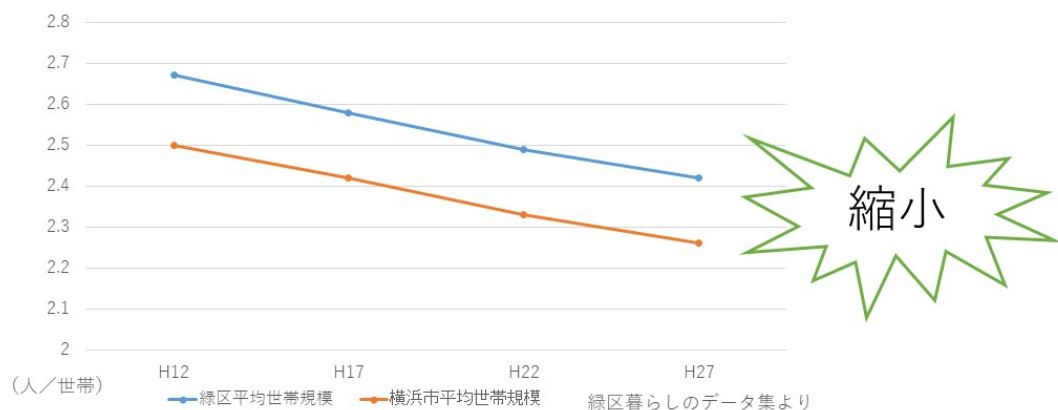
4

子どもを取り巻く状況①

世帯規模の縮小

⇒ 少子高齢化に加え、協力を得られる家族が少なくなっている。

緑区平均世帯規模の動向



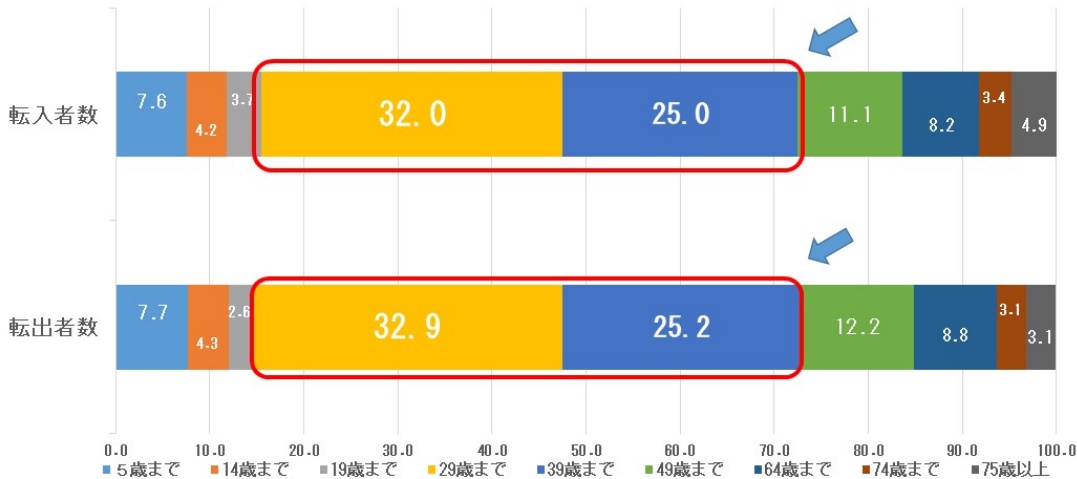
5

子どもを取り巻く状況②

地縁のない子育て世帯が多い

⇒ 隣近所を気軽に頼ることができない。

転出入とも、20～30代が全体の6割を占める



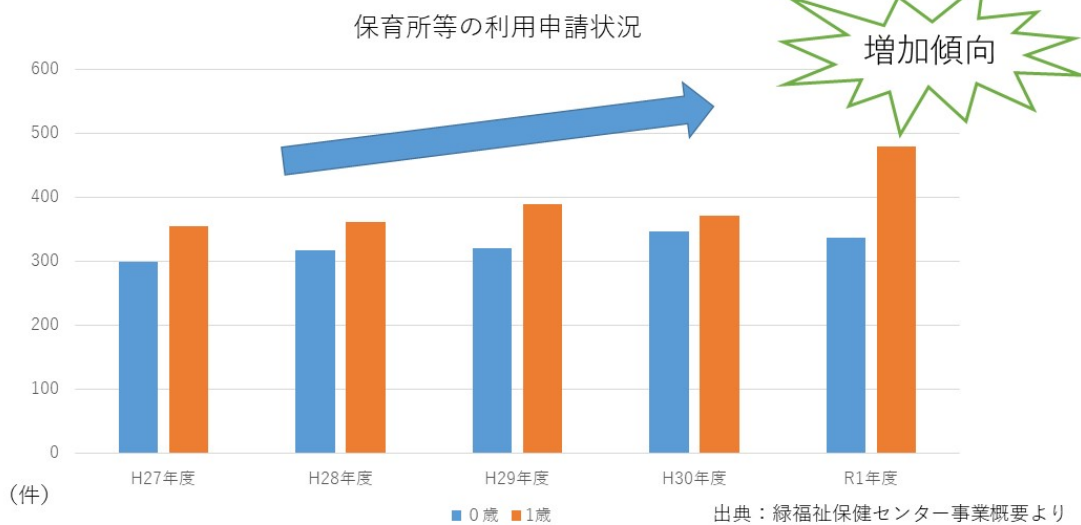
出典：横浜市の人口～令和元年度中の人口動態と令和2年1月1日現在 「第7表男女、行政区、年齢区分別転出者数及び割合（令和元年中）」

6

子どもを取り巻く状況③

共働き世帯の増加

⇒ 家庭での子育て力に限りがある。



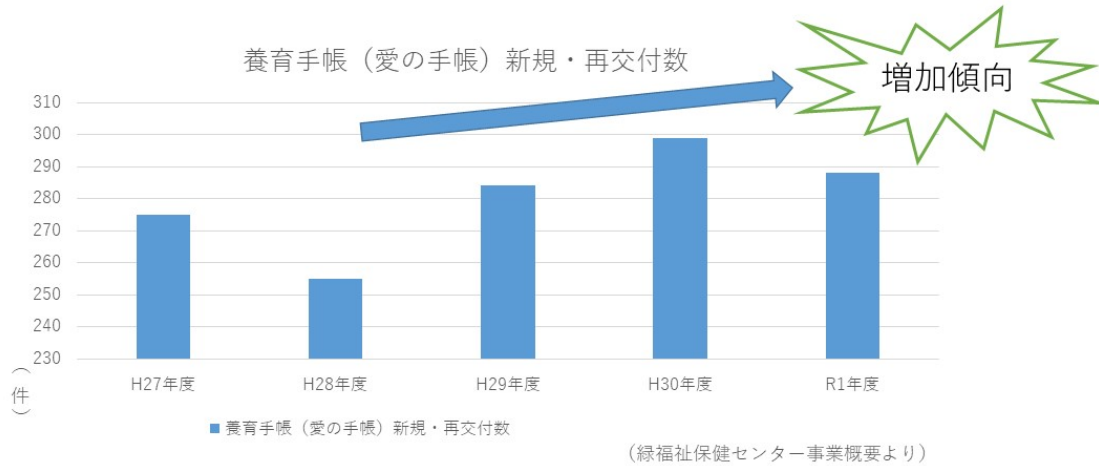
出典：緑福祉保健センター事業概要より

7

子どもを取り巻く状況④

療育手帳（愛の手帳）の交付数の増加
⇒支援を要する子どもが増加傾向にある。

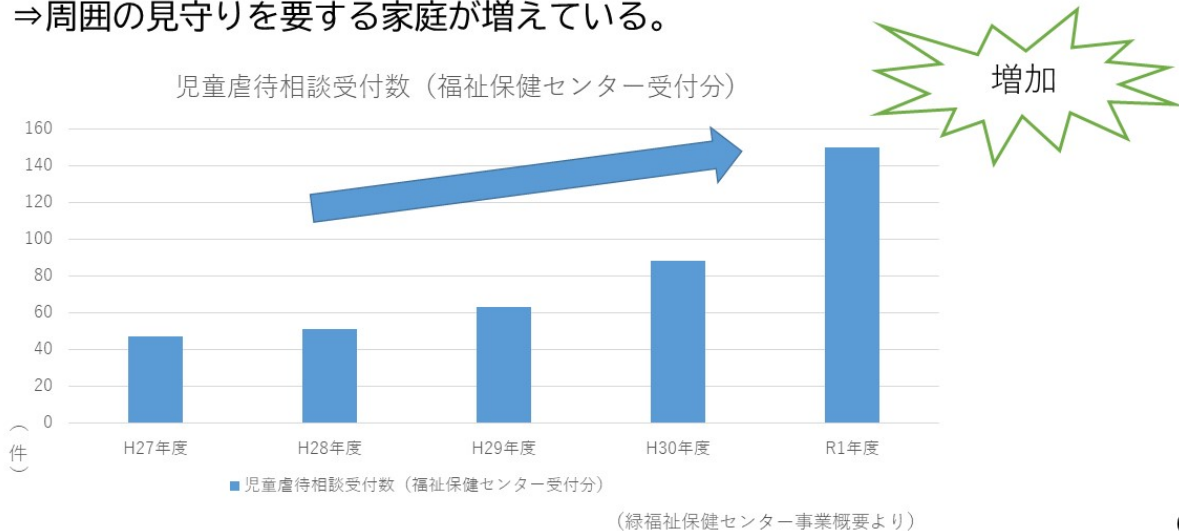
※療育手帳（愛の手帳）とは
児童相談所又は障害者更生相談所において
知的障害があると判定された方に交付される
ものです。



8

子どもを取り巻く状況⑤

区こども家庭支援課が対応する児童虐待件数の増加傾向
⇒周囲の見守りを要する家庭が増えている。



9

【皆さんと一緒に考えたいこと】

子どもたちにとって
住みよい緑区にするためにどうしたらいいか？

各活動団体に
聞いてみよう！！



10

子育て支援拠点
「いっぽ」



「いっぽ」とは？

未就学児とその親、またその子育て支援をする人
のための施設です！



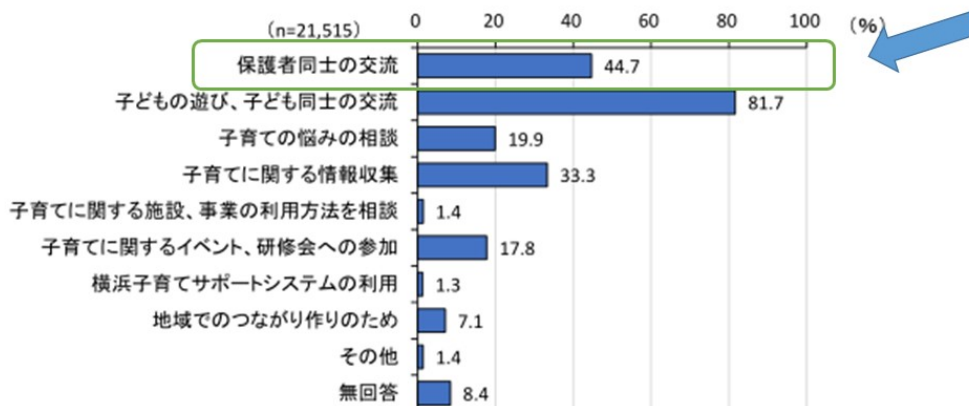
場所は…
住所：緑区十日市場街817-8
JR十日市場駅南口から徒歩3分のところにあります。

11

<子育て世代向けアンケート>
 地域の子育て支援施設の利用の目的は？

⇒「保護者同士の交流」の回答が多く、子ども同士の交流に次いで、当事者同士のつながりを求めていることが伺える。

図表 4-6-3 地域の子育て支援施設の利用目的【複数回答】



(出典) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査（平成30年度、未就学児）

12

地域子育て支援拠点「いっぽ」の取組

- ・親子の居場所事業
- ・子育て相談事業
- ・情報収集、提供事業
- ・ネットワーク事業
- ・人材育成、活動支援事業
- ・横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業
- ・子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること



「いっぽ」は
子育てに関わる人たちのつながりを
持つ場を作っています！



13

コロナ禍での活動状況

「ひろば」はいっぽの中にある、親も子も交流するための場です。

①工夫していること

- ・利用者には、入館前の検温・手洗い・マスク着用を依頼している。
- ・換気の徹底、1日2回のおもちゃの消毒等、感染対策を実施している。
- ・感染防止に努めながら、子育て中の親子が孤立しないよう、ひろばでの交流を促している。
- ・インスタグラム等、SNSを使って情報発信を強化している。
- ・外あそびのニーズが増えており、外あそびのプログラムの回数を増やしている。

②よかった点

- ・令和2年4月の緊急事態宣言中に、WEB上でアンケートを実施。そのアンケート結果を反映し、オンラインサロンの開催実施につながった。反響もあり、すぐに取り組を進められ良かった。
- ・インスタグラムやYoutube等を始めるきっかけとなった。

③課題・難しい点

- ・ひろばを「利用する人」と「利用しない人」の2極化が進んでいるように感じる。
- ・ひろばの利用がない人、いっぽとのつながりがない人への取組の周知に難しさを感じる
- ・オンラインサロンを企画しているが、当初に比べてなかなか参加者が増えない。

14

みほどんぐりの会



15

みほどんぐりの会

(平成30年4月から開始)



三保地区周辺に住んでいる親子が歩いていける場所に、居場所を作り、親子で楽しむイベントを開催しているサークル

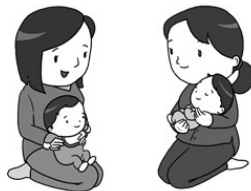
対象者：0歳～小学校入学前（主に未就園児）までの子どもと保護者

日時：第4木曜日 10時～11時30分

場所：三保自治会館等

参加費：1家族 100円（内容によって変更あり）

内容：季節のイベント、地域の方とのふれあいの会



16

活動を始めたきっかけ

【三保地区の未就園児を抱える保護者の想い】

「子育て支援拠点などが遠く、赤ちゃん教室ぐらいしか、同じ年頃の親子と関われる場所がない…。赤ちゃん教室を卒業しても、同じ年頃の子を持つ通し集える居場所がほしい」



【子育て支援拠点いっぱい 区役所の思い】

「子育て支援拠点や親子の広場、地区センターなどから離れており、未就園児の親子が歩いて行ける場所に居場所を作れたら…いや、作らないと！」



行政、社会福祉協議会、子育て支援拠点、自治会、保健活動推進員などのサポートのもと、母親たちが主体の親子サークルを作ろう！！

17

活動内容

こどもの日 七夕 夏祭り ハロウィン 運動会 クリスマス会
豆まき ひなまつり おはなしフェスタ おはなし会ママ向け講座

不定期で戸外、里山ガーデンピクニック プチ遠足
(こどもの国、ズーラシア、消防署見学など)



18

活動を行う上での工夫



運営形態の工夫

運営側と参加者の区別はなく、全員が参加者で運営者！
親子もボランティアも、みんなができることをできる範囲でやる。



活動を広める工夫

子育て支援拠点、区役所、子育て支援者会場、赤ちゃん教室、赤ちゃん訪問等でチラシの掲示や配布。みどりっこ広場での活動の紹介、活動の予定を掲載している。



地域と繋がる工夫

民生委員、保健活動推進員といった、子育て世帯とつながりのある地域の方にボランティアとして参加をしてもらう



19

活動による手応え、変化



参加者、ボランティア向けにアンケートを実施

参加者からは

- ・保健活動推進員さん、民生委員さんを中心に地域の方と関わってうれしい
- ・活動の担当になるとドキドキもしますが、準備など学生時代に戻ったようで楽しく、行った内容を子どもたちが喜んだり、楽しんだりしてくれると達成感を味わえる



- ・赤ちゃんや若い世代のママ達と関わる機会ができて嬉しく、パワーをもらえる
- ・孫が大きくなったから、小さい子どもと過ごせて癒される

ボランティアからは

といった声を頂いています。

20

コロナ禍での活動状況

(1) コロナ前と変更したこと・工夫したこと

- ・感染拡大の状況に応じて、密集が予想される内容の時にはオンラインで開催
- ・自治会館を利用する時は、窓を開けて換気を実施。
- ・参加する保護者とボランティアにはマスク着用を依頼



(2) よかった点・手応えを感じている点

- 参加者から次のようなご意見をいただいています。
- ・オンラインだと、自宅に居ながら他の人と（感染の心配がなく）安心して、お話ができ嬉しい。
 - ・以前会に参加していたOBの方とお話しができよかった。

(3) 課題・難しい点

- ・オンライン開催にあたっては会の進行に工夫が必要！！
- 進行者も子どもをあやしながら参加するため、思いどおりにはなかなか進行ができなかったり、参加者同士が十分に話すことが難しい部分があった。
- ・家族が在宅でテレワークをしていると、思い切った参加とはできず、気を使わざるを得ないこともあった。

21

地域の子育て力の向上のために…

- ☆ 親子と地域とのつながりができる場所になってほしい！
- ☆ 地域で活動してくださっている方に、
内容を知ってもらおうきっかけづくり
- ☆ 同じ地区に住む一個人として、子育て世代の保護者や
子ども達と同じ場を共有してもらいたい



22

こどものいばしょ
こども村



23

活動を始めたきっかけ

地域の中で、こんなことが気になっていました…

→ 夫婦共働き等で、子どもたちが夜まで一人で
過ごす時間が増えている…
携帯、ゲームが普及し会話が少なくなっている

そういった子たちと、近所のおばさんが一緒に過ごせたらと
思い、周りの人達へ発信してみました！



24

活動を始めたきっかけ

新治西部地区



十日市場団地地区

地域に気になる子がいる…
何かできないか。

区役所によるマッチング

十日市場駅周辺 こどもの居場所づくり
検討委員会が立ち上がる



地域でたくさんの方が同じ思いであったことを、
区役所がケアプラザ、社会福祉協議会、学校等と
つないでくれて、「十日市場駅周辺こどもの居場所
づくり検討委員会」が立ち上がりました。

こども村 誕生 (平成30年12月)

25

平成30年7月26日
第1回「十日市場駅周辺こどもの居場所づくり検討委員会」



今の子ども们的状況は？
どんな「居場所」が必要？
何をやる？
周知はどうやって？
などを、検討委員会で話合いました。



平成30年12月1日
イベントを実施

→ 地域子どもたちに居場所を作っていくことを、イベントで知ってもらおう！



参加した子どもたちの投票により
居場所の名前を

こども村 に決定

活動の様子

子どもが一人で来ても大丈夫。自由に遊んだり、宿題をしても好きなことをして過ごしてもらおう居場所。

- 対象者：十日市場駅周辺の小学生
- 日時：第2、4水曜日（15時～17時）
- 場所：十日市場地域ケアプラザ
- 参加費：無料



夏休みや春休み等、イベントも行っています。



工夫していること

①子どもたちが自由に過ごせるよう、何をするかは参加する子どもたちが決める

手芸 お絵かき カードゲーム オセロ 人生ゲーム等
来てすぐに、宿題をしてから遊ぶ子ども。



②スタッフは、子どもたちと同じ目線で過ごす

時には我が子、時には孫、いろんな感覚です。

ゲームでは、子どもたちが先生となり教えてくれることも多いです。

盛り上がりすぎて大騒ぎする子、仲間うまく入れない子、けんかを始める子
→ スタッフが、ゆっくり話を聞き、対応しています。

活動後、参加した子で気にかかる子、心配な子のことを共有し話し合いをしています。

28

活動による手応え、変化



参加している子どもたちは

- ・一人ひとりと接するので、今感じていること、思いを表に出してくれるようになった
- ・乱暴な言葉遣いの子ども、少しずつ落ち着いてきている
- ・将来の夢を語ってくれる子どももいる
- ・スタッフに道端で会った時、挨拶をしてくれる子どもが増えた



スタッフは

- ・子どもたちの変化を感じ地域の中で、子どもが安心して過ごすことができる居場所の必要性を再度確認

29

地域の子育て力の向上のために…

近所にお住まいの子たちへ
声をかけてほしい



「いってらっしゃい」 「元気だね」 「気を付けてね」 など

今、この緑区で育った子どもたちが、将来親になっていきます。
緑区で育ってよかったと思う子が増えると、地域も元気になっていきます。

もっと、たくさんの子たちに来てもらいたい！
もっとたくさんボランティアに来てもらいたい！

30

コロナ禍での活動状況

「子どもたちと同じ目線でコミュニケーションをとる」
という理念は変えない。

(1) 工夫していること

- ① 感染防止対策
 - ・「手洗い」「消毒」「検温」「3密防止」
 - ・使用する道具は、都度消毒するか、使い捨てのものに変更。
- ② 制限がある中での工夫
 - ・子どもたちに「いつもと違う形で遊ぶよ」と前もって説明して活動する。
 - ・共通した話題が持てるよう、子どもたちの生活スタイル・語彙力にあわせて、会話を広げていける遊び方を模索している。



(2) 良かったこと

- ・コロナ禍での子どもたちの生活の様子を直接聞くことができた。
- ・これまでは当たり前に使っていたおもちゃが無くても、紙やペンだけでも十分会話が楽しめる。
- ・ボランティアの思い出話を子どもたちに話すことで、子どもたちもボランティアも楽しんでいる。

家族の話をしている時は笑顔！

(3) 今後に向けた課題

- ・新たな遊びを導入した際に、個々の子どもたちにとって得手・不得手があり、どのように一人ひとりに寄り添って対応していくか…。
- ・遊びの中で「字が上手く書けない」「言葉が上手く表現できないこと」へのフォローをよりきめ細やかに実施できれば…。

31

よりみち学習広場



32

よりみち学習広場

(活動開始は平成27年

子どもたちへの支援開始は平成28年1月から)



寄り添い型の学習支援。小学生は算数を中心に、中学生は英語・数学を中心に理解が深まるように行っている。

対象者：小学生、中学生

日時：① 毎週水曜日 15時～16時45分 (小学生) 18時～ (中学生)

② 毎週月曜日 14時～17時の間で1時間半

場所：① 東本郷地域ケアプラザ ② 東本郷小学校コミュニティーハウス

参加費：無料

内容：算数・数学・英語のプリント学習



33

活動を始めたきっかけ

- ① 何らかの事情で学習が遅れた児童・生徒が学校へ通うようになっても自分の力だけでは中々授業についていけず学習意欲の足かせになっている。
- ② 子どもたちは成長過程で周囲の環境に大きく影響を受け、様々な困難の中で成長すると学習環境も劣悪になる場合も多く、心身の成長も十分にできないことも起こる。



子どもたちが学習行動を自立出来るようになるまで支援し、不登校等を解消し通常の学校生活に戻れるように見守って行きたい。

34

活動目標

1. 小・中学校において不登校であった生徒の学習を通常の授業の理解ができるまで支援する。
2. 何らかの事情で授業に遅れた児童・生徒の学習を支援し遅れを取り戻す。
3. 学校や家庭で居場所のない子が落ち着ける居場所を作り、子ども達の健全な成長を支援する。

35

活動を行う上での工夫

～よりみち学習広場の特徴～

- 1 宿題・算数・数学・英語を中心に個別に学習支援
- 2 子どもたちと同じ目線で学習
- 3 勉強の後はお話し・ゲーム・お菓子タイム
- 4 ゲームなどを通して子どもに自信を持たせる
- 5 教える側は単なる先輩 (～先生ではなく、～さん)



- ・ テキストや記録を充実させ、誰でもどの子にも対応できるようにしている (支援者が休み易くしている)
- ・ 子どもに注意はするが怒らない
- ・ 子どもの居場所作りを意識して運営
- ・ 学習支援者の研修を継続している
- ・ 季節ごとに楽しいイベントを実施

36

活動の様子



初期のよりみち学習広場

当初は会議室が使用できず、東本郷地域ケアプラザの談話コーナーを優先利用させていただき開始した。



個別指導が基本



37

学習のための準備



・ 積み木様ブロック



・ 分数キット

ブロックや分数キットをいじりながら算数の
感覚を自然と学ぶ

学習後の楽しみ



ゲームをしながら
自分に自信を持つ

38

地域との連携

1. 夏休み学習会

希望する小学生・中学生を対象に夏休み勉強会(宿題教室)

2. 夏休み理科の実験教室

小学生を対象に実験教室(おもしろ科学探検工房と連携)
参加者全員で楽しく食事会



← 夏休み理科の実験教室



↑ 夏休み学習教室

39

活動による手応え、変化

- ✓ 少しずつ自分に自信を持てるようになってきたと感じられる
- ✓ みんなと一緒に仲良くトランプをしたり、お菓子を配ったりする
- ✓ たまにしか学校へ行っていなかった子が普通に登校するようになった
- ✓ 乱暴な行動に対する周囲からのクレームが減った

学習面でも…

- ・ 掛け算九九ができるようになった
- ・ 2桁のわり算ができるようになった
- ・ 分数ができるようになった



40

コロナ禍での活動状況

令和2年3月の緊急事態宣言発令中、活動している場も休会せざるを得ない状況となった

(1) 工夫していること

- ① 感染防止のため、換気、手指消毒、スリッパ持参、マスク着用を徹底。部屋の人数も少なくした。また、共有の道具を利用する時は、手袋をしている。
- ② ホワイトボードを使用し、距離を取り教えるよう工夫している



(2) 手応え

コロナ禍でマンツーマン指導の機会が増え、きめ細やかに指導することができている。

(3) 課題

令和3年1月の緊急事態宣言発令に伴い、再度会場に利用の制限が設定され、小学生向けについては、再度休会…。どうしても会場の利用制限の影響を受けてしまう。

➡ 子どもたちのため、昼間利用できる場所が欲しい。

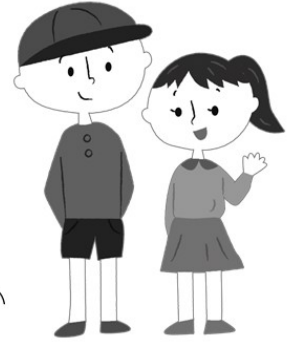


41

地域の子育て力向上のために…

こどもたちの居場所がほしい（家や学校以外の居場所）

- ☆ 子どもたちがゆっくり（ゆったり）できる場所
- ☆ 子どもたちが宿題や勉強できる場所
（解らないところを教えてくれる大人）
- ☆ 子どもたちが遊べる場所（室内）
- ☆ 大人が隣の部屋でお茶を飲んでいたりしてもよい



42

まとめ

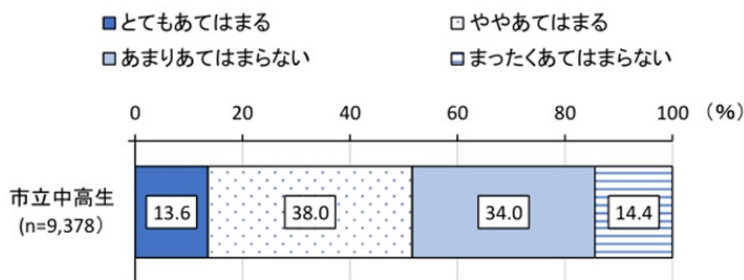


43

子どもを取り巻く状況⑦-1

自己肯定感が低い

図表 4-2-1 自分のことが好きである（市立中高生）

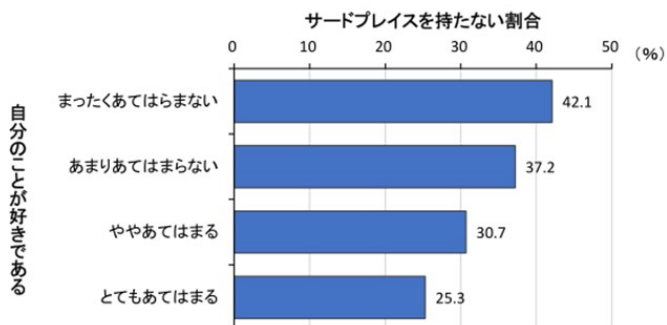


（出典）横浜市「中高生の放課後の過ごし方や体験活動に関するアンケート調査」（平成30年度）

子どもを取り巻く状況⑦-2

自己肯定感が低い子どもは（学校・家庭以外の）「第三の居場所」を持っていない
 ⇒ 第三の居場所は子どもの自己肯定感の向上に期待できる。

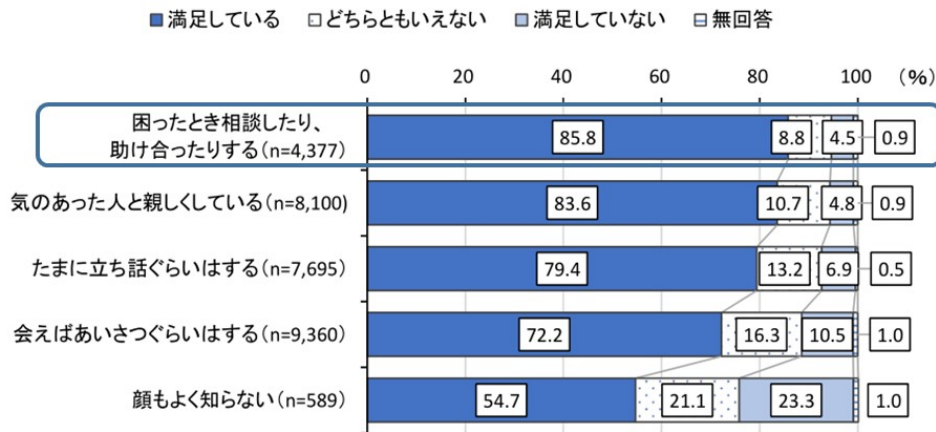
図表 4-2-2 自分のことが好きである程度とサードプレイスを持たない割合(※)



(※)「サードプレイスを持たない割合」：居場所がない、又は単一の居場所しか持たないと回答した割合
 (出典) 横浜市「中高生の放課後の過ごし方や体験活動に関するアンケート調査」（平成30年度）

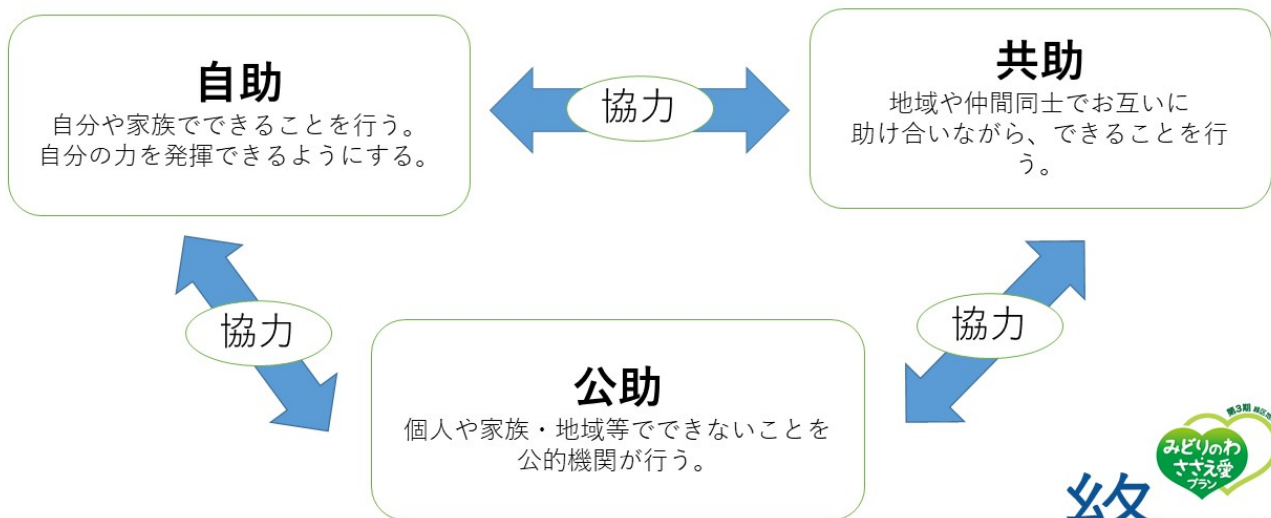
地域に支えられる子育て環境は 保護者にとっても非常に心強い！！

図表 2-19 近所の人との付き合い方別の子育ての満足度



(出典) 横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査 (平成 30 年度、小学生)

社会全体で取り組む子ども・子育て支援 に取り組んでいきましょう！！



「第1期横浜市子ども・子育て支援事業計画P.33」参照

